

だから、城内に水をひくことは、高いところに水をひかなければならないわけ  
です。

豊助はこまつてしまいました。高いところにもひける豊かな水はないか、――  
東山ひがしやまから飯盛山いもりやまを歩きまわっているとき、ふと気がついたのは、猪苗代湖いなわしろこから  
水をひいてくる戸との口くちの用水路でした。

「そうだ、猪苗代湖の水があつた。」

豊助は用水路をたどつて、飯盛山から滝沢たきざわへ、峠とうげをぐるりとまわつて八田野はつたの、  
さらに複雑ふくざつな地形を通つて猪苗代湖へ出ました。

「よくもこんなところを切り開いたものだな。この水をもつと流せないか。  
昔の人の努力に感心するとともに、昔の人にできたことが、自分にできないは  
ずがない、という自信もわいてきました。」

若松と猪苗代湖の間を、何回も馬で駆けめぐらうちに、豊助は、八田野の肝きん